



【全体への意見】

- 基本的な骨格はこれでよいと了承いただいたが、全体的によくありがちな構成となっている。今回のビジョン自体が市民に問いかける、あるいは、市民や事業者にわかりやすいビジョンとして共有したいという観点であれば、コア部分(特に基本的な考え、基本理念)という大事なところは、全体の先頭に持ってくるということもよいのではないか。
- ワークショップ(以下、WS)などを重ねてこのビジョンが作られてきたと市民の皆さんに伝われば、理解されていきやすいと思うので、このビジョンを作り上げていくプロセスそのものを計画の中に記載したらどうか。

【「1. 基本的な考え方」への意見】

- (WSに参加して)この地域を良くしようという熱意を持っている人が非常に多く、刺激を受けた。一方、高田で何か催しをすれば直江津の方はまた何かやっているなという冷めた感覚(逆も然り)があるということを感じて少し驚いたし、自分の施設だけをより良くしたいという意識の方もおり、そのような状況により、点在する魅力が繋がっておらず、地域全体の魅力になっていないと感じることもあった。
- 自身の地元の熊本でも観光する場所としていいところがあるかと聞かれると皆何もないと言っていた印象があるが、地元がとても好きだという人が多く、「良いところだけん、来て!」とよく周りの人に言っている。地元のことを知ってほしい、自慢したいという気持ちが大事だと思っている。
- 最近、「まちづくり」というよりも「まちづかい」という言葉をよく聞く。ハード(建物)のイメージもあるが、まちをみんなであうまく使っていこうという発想。

【「2. 基本理念」への意見】

- 基本理念は、今回のようなWSの中で地域の様々な主体の考えを吸い上げて共有しながら作り上げていくことで、「主体的」な理念になっていくのではないかと感じた。
- 上越市の魅力は、他の有名な観光地と違い、すぐにイメージできるものなかなか無いため、おすすめを聞かれても「何もない」という話になるのではないか。しかし、新しいものを作り出すことは難しいが、人やまちの文化といった良さを深くいろいろな方に伝えられるような魅力は多くあり、そういったものの集合体が上越市ではないかと思った。一見すると地味だが面白そうと思ってもらう、マイナスに思えることをプラスに持っていくのが上越市らしい観光なのではないか。
- 地域間で、そっちはそっちで盛り上がってくれとなってしまう心配があるので、みんなで同じ方向を向けるような理念を作っていきたい。

【「3. 共通の視点」への意見】

○ 担い手の拡充と役割の明確化

- 観光は「まちづくりの手段」であると捉えているので、事業者ももてなしに磨きをかけてより高いもてなしができるように取り組む必要があると思うが、「まちづくり」と考えるとプレイヤーに「市民」が入るべき。
- 役割分担を明記することは大事だが、役割分担と推進体制という話は少し別かと感じる。推進体制としてPDCAサイクルを回す項目もあってもよいと思っており、ワークショップをそれに位置づけ、今後も一種の事業創造塾、地域創生塾のような役割も担えるのではないか。

○ 魅力の再認識

- 高田開府400年で江戸時代からの歴史もあるが、今触れられる江戸の文化はあまり残っていないので、曾祖父くらいの世代(近現代)の文化に掘り起こしてできる可能性を感じる。例えば、鉄道や川上善兵衛の偉業などであり、近代の暮らしぶりがキーワードとして注目されており、面白いものなのではないか。また、戦国武将も非常に魅力的なコンテンツだが、当市でそれが今後どう伸びるのか、いつまでも上杉頼りでいいのかということもある。我々の目が届く比較的新しい歴史を掘り起こして、産業や生業に繋がれたら面白い。

○ 魅力とニーズのマッチング

- 供給側の都合ではなく、来訪者が何を求めているか、何に惹かれるのかというところが重要。

○ データ

- 共通の視点はいずれも大事だと思うが、特にデータの部分に関しては、最近はWI-FIなどで統計もとれるようになっているので、今後何年かで統計手法を固めていけるとよい。